

# ふるさと新聞

わか街をふるさとに

第2、第4金曜日  
毎月2回発行

＝配布地域(校区)＝

- 新浅香山 ■東三国丘 ■新金岡東
- 新金岡 ■光竜寺 ■大泉 ■五箇荘東
- 五箇荘 ■金岡 ■金岡南 ■中百舌鳥

株式会社 **ふるさと新聞社**  
 〒591-8021 大阪府堺市新金岡町5丁目7番534  
 ☎(072)253-4141 ☎FAX 253-4001

## なんやなんやで堺探求 市民活動グループ 堺なんや衆 「徐福、の次は茶の文化」

中世のころから、人も、情報の集積、発信地として、広く世界に開かれていた堺。そんな堺にちなんだ様々なテーマに取り組んでいる「なんや」と旺盛な好奇心で市民活動団体「堺なんや衆」(岡田明彦理事長)が9月20日、勉強会「中国および日本国内における徐福(じょふく)伝説」を開催。会場の市総合福祉会館には市内内外の歴史好き20人が集まった。

「堺なんや衆」は、平成13年に市が主催したワークショップ「魅力ある都市づくり」の参加者が母体。同14年6月、9人の有志により再結成され、現在18人の会員と協賛2団体で構成されている。メンバーは堺の歴史や文化を「なんや、な

んや」と旺盛な好奇心で企画、活動から提言にまで取り組んでいる。今年1月から5回シリーズで、メンバーが取り組んでいるのは「徐福伝説」。徐福は秦の始皇帝の命で、不老薬を求め来日した人物で、日本各地に足跡が見られる。勉強会は、徐福が出航したとされる中国連雲港市と堺市が今年、友好都市提携20周年になるのを記念して企画された。

過去4回、徐福が生き残った時代や文化を学び、遺跡を探訪。20日は、NPO法人、府日中友好協会評議員で徐福に詳しい石川幸子さんを講師に招き、日中錦に点在する徐福ゆかりの地をスライドで紹介。参加者は石川さんの話に熱心に耳を傾け、メモを取っていた。

「堺なんや衆」の次の課題は「茶の文化」。理事の一人、前田秀一さん(新金岡町在住)は「今後も様々な切り口で、堺の魅力を追いたい」と話していた。＝三年

## 大阪日日新聞

2003年(平成15年)10月28日 火曜日

### 友好のきずな 一層の強化を

堺と中国・連雲港  
提携20周年セミナー

堺市と中国・連雲港市の友好都市提携二十周年を記念したセミナー

堺市と中国・連雲港市の友好都市提携二十周年を記念したセミナー

1が二十四日、同市長曾根町の堺商工会議所で開かれた。両市の友好都市交流促進事業実行委員会(井内哲義委員長)の主催によるもので、企業家や歴史研究家など約百三十人が集まり、連雲港市代表団による経済や文化についての講演に聞き入っていた。

江蘇州にある連雲港市は、五千年前の岩石彫刻など歴史的景観が残されている一方、中国十大港湾都市の一つとして発展。経済セミナーでは、連雲港市の投資環境や優遇政策が紹介され、参加



日中両国の「徐福」研究者から熱心な質問が相次いでいた。

また文化セミナーでは、中国・秦の時代に不老薬の薬を求めて日本に渡来したとされる徐福について、日中の第一人者が講演。中国徐福会の張良群副会長は「弥生時代に稲作や漢字などを日本に伝えたのは徐福ではないか。日中交流の先駆けであり、彼を通して友好親善を深められれば」と解説した。

団長の劉永忠市長は「連雲港市にぜひ訪問を。互いに港によって開かれた町として今後とも協力関係を強めたい」と強調していた。

(豊野由慶記者)